

科目名	サブタイトル	担当教員	配置学年
哲学B	僕らの世界の枠組みを作り出したもの	篠原 隆	1 年次後期
目的	我々の世界のシステムを作り出した思想を理解する。学生は来たるべき人生において、世界における自らの立場を理解し、いかに生きるべきかを論理的に客観的に語ることができる。		
到達目標	現代の世界を作り出した思想的枠組みを理解でき、その中で自らの生活設計を大局的に捉えて描くことができ、様々な視点から自らの生きる意味について、論理的に語ることができる。		
講義内容	自然・社会・人間を合理化すればするほど、人間は自由になる。この啓蒙のスローガンのもとに、人類は自然・経済・宗教・社会を合理化してきた。しかし啓蒙の夢は裏切られた。徹底的な市場の合理化のもとで非人間化が進行している。グローバリズム、資本主義の終焉、フロンティアの消滅と超格差社会、止められぬ環境破壊。啓蒙はどこで道を間違ったのか。この啓蒙の歩みに照準をあて、その父権的哲学の陥った逆説（原因）を浮かび上がらせ、理性（我々）の運命を問う。我々の明日はどこにあるのか。		
講義スケジュール	第1講	アウシュヴィッツの標語「労働は人間を自由にする」狩猟採集から農耕定住へ 人類が選択したこと	
	第2講	シャーマンの自然認識 呪術とは何か 等価交換のシステム	
	第3講	神話から哲学的自然認識へ 始源と無限 変化するもの vs. 変化しないもの	
	第4講	ならば三角形の2辺の和は他の1辺に等しい 無は存在するか 1を見たことがあるか この世は仮想か	
	第5講	終わりが始めにある（目的論）。この世の終わりが神である（哲学者の神）。	
	第6講	世界の背後	
	第7講	それはただの名前だ 人間は地上に示現せる神 世界魔術合戦 世界は数で出来ている	
	第8講	傭兵デカルトの戦略 神の存在証明と寸借詐欺 神の錦の御旗のもとに	
	第9講	欲望する自動機械 死が生を可能にする 従えそして支配せよ ホッブス	
	第10講	神は語らない 労働しないことは罪である 宗教改革とレーガノミクス 世界システムと資本主義の終焉	
	第11講	労働はなぜ楽しいか 資本主義における自由と快樂 道具としての私（官僚的制度）。	
	第12講	「努力は必ず報われる」（アイドル・カリスマとは何か） 近代理性は自由の敵である（ウェーバー官僚論）	
	第13講	理性と自由をつないだ夢の行方 我々はどこで間違えたのか 希望はあるのか。	
	第14講	希望の原理（エルンスト・ブロッホ）。裏切られることに意味がある。	
	第15講	再度、問おう。人間とは何か。希望である。	
指導方法	講義を中心とし、毎回資料を配布する。映像資料を満載し、視覚的に捉えられるようにする。毎回、感想・意見を書いてもらい、次回冒頭でコメント・討論する。パワーポイントを使用する。		
授業外学習	配布した資料に基づき、インターネットなどを通じて、事前に調べて、授業内ディスカッションで発表する。また、疑問点、興味を持った事項について調べ、次回の授業内アンケートに記入する。		
成績評価方法	本試験（筆記試験、全て持ち込み可）80%、平常点（授業内発言、レポート、授業内アンケート質問）20%		
テキスト	啓蒙の弁証法—哲学的断想：岩波文庫		
参考書籍	フランクフルト学派—ホルクハイマー、アドルノから21世紀の「批判理論」へ：中公新書		
特記事項	授業内私語 許さない。出席条件厳守。		